

教職入門

奈良教育大学 教師力サポートオフィス 教職ノート



ドキュメント



資料



データ



ワークシート



教職入門とは

目的

この授業は、教師になるための学びのスタートラインです。教職への希望や、教師としての力量形成のための展望を培うことを目的としています。講義やディスカッション、恩師の訪問を通して、教職を学ぶ者として、受け身から主体へと立場を転換していくことをめざします。

到達目標

- ① 教員の仕事や役割、職務内容の一端を知り、「教師の仕事」についてのイメージを形成する。
- ② 「子ども（幼児・児童・生徒）」としての自分から、「教師／教育実習生になりゆく者」としての自分への立場の転換を自覚し、その転換にむけた構えを形成する。

授業計画（内容と方法）

前期の前半は「大学での学び入門」です。「教職入門」は6月から開始予定です。

I. 導入	全体オリエンテーションと「印象に残る教師」の交流
II. 教師になるための学び	教育実習を終えた先輩に学ぶパネルディスカッション
III. 教師の仕事の諸相	現職または元教師の講演から学ぶ
IV. 教師の仕事と子どもの学び	恩師訪問の計画・報告・交流

評価方法

次の2種類を総合して行います。

1. 授業の際のワークシート・ミニレポート(50%)
2. 恩師訪問レポート「恩師を訪ねて」(50%) (1600字以内)

※A4横書き。ワープロ作成。やむなく手書きする場合は、原稿用紙（A4横書き）を使用。

※冒頭に、授業名、タイトル、所属、学生番号、氏名を明記のこと。

※原稿はしっかりと綴じて提出すること。レポートが散逸して通読できない場合は、評価できない。

メッセージ

皆さんはこれまで、子どもや児童・生徒として教師に出会ってきましたね。大学の4年間では、そうした経験をとらえなおし、将来は、教師として子どもたちに出会うことが求められています。「教師になるつもりはない」と思っている人を含めて、少なくとも教育実習では、教師として子どもたちの前に立つのであり、中途半端な態度で臨むことは許されません。

まだあまり実感がわかないかもしれませんが、教師として子どもたちの前に立つとはどういうことなのか、そのために身につけなければならない力量とはどんなものなのかを、この授業をとおしてしっかりと考えてください。自らの学校体験、先輩の教育実習体験、ベテランの先生方の講義、恩師の訪問などをもとに、「教師のしごと」についてのイメージを形成し、「教師になりゆく者」としての学びの構えを考え合いましょう。専修単位のグループワークを行いますので、積極的な参加を期待しています。



教
職
入
門



恩師を訪ねて

恩師を訪ねて について

「教職入門」では、皆さんの印象に残る恩師を訪ね、お話を伺ってレポートをまとめる課題を課します。皆さん自身がかつて子どもとして接した先生に、今、大学に入学して、教育について勉強している者、教師を目指している者として、再会してみてください。そして、大学内外での学習なども踏まえつつ、「教師のしごと」ということについて、先生にお話をうかがい、考察してください。

ねらい

- ★かつて子どもとして接した先生の中で印象に残っている先生を訪ね、今度は教職を志向する後輩という立場から、教師として先生が歩んでこられた道や、「教師のしごと」の魅力と苦労などについてお話を伺う。
- ★その先生と過ごした子ども時代の体験と、今回うかがったお話を照らしあわせながら、「教師のしごと」の意義や課題などについて考察する。

インタビューの切り口

「教職入門」の授業では、恩師に具体的にどのようなお話を伺うかを、受講生同士で考えていきます。参考までに、いくつかの視点を挙げましょう。

- ★先生が歩んでこられた道：先生の子どもの時代、学生時代、教師になろうと思ったきっかけ、新任教師時代、教育観の変化など
- ★「教師のしごと」の中で印象深いこと：心に残る子ども、保護者、同僚・先輩、教材・授業
- ★「教師のしごと」の魅力、喜び、醍醐味
- ★「教師のしごと」の困難、苦労、つらさ
- ★教師として大切にしてきたこと
- ★自分（あなた）の頃の子どもと最近の子ども：同じところ、変わったところ
- ★教師に必要な力量：いつの時代にも変わらないもの、これから特に求められるもの
- ★大学時代に学んでおくべきこと：大学で学ぶこと、大学以外で学ぶこと
- ★教師になってから学ぶべきこと

また、インタビューでは、一方的に先生にお話ししていただくだけではなく、皆さん自身が大学の授業等で学んだことや、今考えていること、不安に思っていることなどを話してみましょう。



レポートの内容・書き方

レポートを作成する際には、次のことに留意してください。

①先生について

- ＊お話をうかがった先生と自分との関係（どの学校の何年生の時に会った先生なのか、学級担任／教科担任／部活の顧問／保健室の先生なのかなど）を明記すること。
- ＊なぜその先生のお話を聞きたいと思ったのかを記すこと。
- ＊その先生の現在の状況（勤務校の校種、担当している教科など）を明記すること。

②インタビュー内容について

- ＊どのような質問をし、どのように答えていただいたのかを記すこと。
- ＊一問一答式にインタビュー内容を書き起こしたり、要約したりするだけではなく、その時の状況や、先生の強調点がわかるように工夫すること。

③考察

- ＊先生のお話をうかがって自分はどのように考えたのかを記すこと。
- ＊インタビュー全体から、教師という仕事の意義や教師の役割、自分自身の進路について考察すること。